

名古屋大学史資料室ニュース

<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

第 8 号

目次

"A History-21 Short Stories in Pictures", The University of Tokyo 1877-2000 (仮称) の編集、発行について……………	2
名古屋大学史とともに四半世紀……………	4
受贈図書一覧……………	6
資料室日誌 (抄)……………	9



共同教育研究施設 1号館 2階の名古屋大学史資料室

“A History-21 Short Stories in Pictures” , The University of Tokyo 1877-2000(仮称)の編集、発行について

東京大学助教授 東京大学史史料室 中野 実

はじめに

1997年、東京大学は創立120周年の事業を行った。当初の企画案には赤門脇の倉庫を改修して、大学史関係の展示も企画されていたが、実現しなかった。この結果、史料室の参加はささやかなものになった。『東京大学歴代総長式辞告辞集』と『年譜 1877-1997』の2つが参加作品にあたる。とくに後者は今回の“A History-21 Short Stories in Pictures”, The University of Tokyo 1877-2000(弊室は和文に対して英文年譜と呼んでおり、その呼称を使わせていただく)作成の発端になった。「年譜」の詳しい編集経緯などは『東京大学史紀要』(第16号、1998年)に掲載されている大島宏氏の「年譜」を参考にしてほしい(「年譜 1877-1997」編集に関する覚書)。和文年譜の編纂には2つの趣旨があった。一つは100周年以後の歩みをデータとして整理しておくこと、歴史的視点を踏まえた手軽な図録とすること、の2つにあった。和文年譜はハンディーな48頁、フルカラー印刷によるビジュアル的要素が強かったこともあり、好評を得た。ハンディーな割には20年分の年譜は充実している、との評価は嬉しかった。事業の終了後、和文と同様な英文年譜を編集することが総長から提案された。外国からの来訪者、総長の海外出張など、主に外国に向けて東京大学を紹介したパンフレットの編集が持ち上がったのである。

編集の立ち上げ

英文概要は毎年編集されているが、あくまでも現状の紹介が中心にならざるを得ない。英文年譜は歴史的視点を生かした編集を目指した。まず外国の諸大学が編集したこの種の印刷物を参考にすることにした。アメリカ、イギリスを対象にして、約150校に照会状を發した(ただし回答は2割に満たなかった)。この基礎作業から、人物が多く取り上げられていることが分かり、その視点を生かすことにした。和文年譜は100年間分とそれ以後の20年分とに区分して、20年分は見開き構成にしたが、英文は120余年を等分することになった。和文をそのまま英文にするだけでは済まない、ということがすこしばつ実感されてきた。

事項の設定

英文年譜は基本的に和文年譜と同じコンセプト、同じ紙

面構成を考えていたが、実際の編集が進むにつれて、すいぶん変更が大きくなった。

英文年譜は21の事項と年譜とから構成される。和文年譜も事項は設定していたが、紙面によって語らせることとして、あえて紙面に掲げなかったし、年別編成のため目次も作成しなかった。取り上げた事項は以下の通りである。Origins/ Hongo Campus/ The Founding of the University of Tokyo/ Foreign Teachers/ The University of Tokyo and Literature/ Imperial Universities/ Remnants Day Past/ Graduation/ Older Structures/ The University Library/ The University Auditorium/ The War and the University/ Women Students/ The Higher Schools and University/ The Student Movements/ Anniversaries/ International Relations/ Student Exchanges/ The Komaba and May Festivals/ Views of the University

和文では取り上げなかった事項は、Foreign Instructors、The University of Tokyo and Literature、Imperial Universities、Remnants Day Past、Older Structures、The Hongo Campus Plan after 1923、The War and the University、Women Students、The Higher Schools and University、The Student Movements の10を数える。Remnants Day Past、Older Structures、The Hongo Campus Plan after 1923、などは名所旧跡の色彩の濃い紙面になっている。The University of Tokyo and Literatureにおいては、森鷗外、夏目漱石、川端康成、大江健三郎の4氏を作品とポートレイトにて構成した。Women Studentsは戦前期も対象に入れて、文学部聴講生であった小泉郁子、最初に女子として理学博士が授与された保井コノ、戦後最初の東京大学入学生の一人藤田晴子氏の卒業証書などを収録することが出来た。

年譜はきわめて簡略になった。和文の場合はこれが中心課題にあり、100年以後の歩みが整理できた。英文の詳細年譜を掲載する以上に、まず小史を伝えることを主題にしたため、年表は約10年に10程度の事項を記すに止めた。

翻訳のこと

翻訳は外注した。八百字程度の日本語で書かれたさきの21の事項と、和文年譜に掲載した年表とを翻訳した。史料室では英文一覧などを参考して、機関名、固有名詞などの訳語の整理を行い、翻訳に正確を期した。教育制度などの

用語については、国立教育研究所編『日本近代教育史に関する専門用語の英訳語標準化についての調査研究』（1992・3年）などを参照にした。たとえば機関名について、司法省の法学校の英語表記は、司法省の英文年報にあるのだろうか。戦時中に設置された臨時医学専門部は？、といった具合に疑問、難問は止まるところがなかった。大学の基本単位の学部という名称すらも変化していた。帝国大学成立前の東京大学法理文3学部の学部は department、1920年代までは college、のちに faculty となる。この表記の違いがどのように受け取られるか、という心配とともに、この変化をいかに読むかということも教えてくれれば、という期待もある。全体からいえば、英文化のための基盤整備は、予想をはるかに遅れていることが身に沁みて分かった。

小史への道

ところで大学における英文史料は、学校一覧、便覧に代表されるように、かなり早くから存在していた。拙著『東京大学物語』（吉川弘文館）の一節「もう一つの東京大学史」にて取り上げた学校一覧、便覧はもとも外国人教師のために編集され、英文版がオリジナルとっていい。和文一覧が1969年—1970年版を最後になくなった後も、英文版は隔年に編集され、現在まで継続されている。この“The University of Tokyo Catalogue”の巻頭に History がある。これがほとんど唯一の英文による東京大学小史である。しかし、あまりにも短すぎる。国際化が叫ばれるなかにあつて、大学の歴史、建築物、人物などを記した外国語による沿革史誌がないのは、考えてみれば奇妙なことである。

今回、ようやく一歩を踏み出した。そしていずれは英文の東京大学史が上梓されることを念願している。

The University of Tokyo and Literature

Many of Japan's most famous writers have graduated from the University of Tokyo. In addition to the two winners of the Nobel Prize in literature, Kawabata Yasunari and Oe Kenzaburo, literary greats such as Natsume Soseki, Mori Ogai, Akutagawa Ryunosuke, and Mishima Yukio also studied at the University of Tokyo.

Natsume Soseki is one of the famous novelists in Japan. After graduating with a degree in English literature from the Faculty of Letters of the Imperial University of Tokyo, Soseki continued his studies at the University's graduate school. He later taught at the Tokyo Higher Normal School and the Fifth Higher School in Kumamoto Prefecture. In 1900, Soseki went to England as a government student. In 1903, he became an instructor at the University of Tokyo, lecturing on styles of English literature, literary theory, and literary criticism. Soseki wrote his famous novel, *Wagahai wa Neko de aru* in 1905 while still an instructor at the University of Tokyo. This critical view of human foibles told from a cat's perspective made Natsume Soseki famous. Other works by Soseki written during his tenure at the University include *Kusamakura* and *Botschan*. The novel *Sanshiro*, about a university student, was written in 1907 after Soseki left the University of Tokyo. *Sanshiro* was acclaimed at the time for its vivid description of the thoughts and life of an intellectual youth. The *Sanshiro Pond* in the University of Tokyo was named after this novel.

Mori Ogai is another author who included the University of Tokyo in many of his writings. The University of Tokyo appears in the writings of many other famous Japanese as well.



Natsume Soseki, "Wagahai wa Neko de aru" ("I am a cat" 1905)



Natsume Soseki during his college days (standing left)



Mori Ogai during his college days (standing left)



Mori Ogai "Sokujin" (Translation of HANS CHRISTIAN ANDERSEN's swan lake 1902)

C'tyutin Minato Haman Jomho

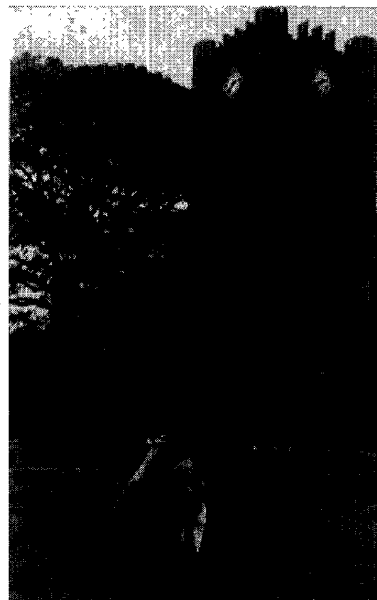
1885 Sept Tokyo Hogakko (Law School) merged 1888 with Tokyo University Department of Law The Department of Technology established The engineering courses separated from the Department of Science, Department of Law renamed Faculty of Law and Politics Political science and economic courses moved from department of literature



Kawabata Yasunari during his college days (sitting on the chair) C'tyutin Minato Haman Jomho



Kawabata Yasunari "Tan no Otsuki" ("The Chasing Girl of Ise" 1912)



Or Kusashiro

名古屋大学史と ともに四半世紀

名古屋大学史資料室長 篠田 弘

名古屋大学に赴任した翌年の1977（昭和52）年に、私は、「歴史編さん委員会」の教育学部委員となった。この委員会は、名古屋大学四十年史の編さんを目指して設置されていた。しかし、独立した編集室が設置されていなかったこともあり、年史編纂の仕事は遅々として進まなかった。1985（昭和60）年、この委員会が「名古屋大学史編集委員会」（江藤恭二委員長）に発展的に解消された。翌年に私は、名古屋大学史編集室専門委員会の委員を兼任し、大学史編さんに直接関与することとなった。その後、1989（平成元年）名古屋大学史編集委員会編集室長となり、1992（平成4）年に同委員会編集委員長及び編集室長となった。その間、編集室の助手諸君とともに、資料の発掘と収集につとめ、国家的視野のみならず、中部地方、東海地方、さらには愛知県という地域において、名古屋大学の成立と発展の具体的様相を明らかにすることをめざした。

次に、通史編さん過程の概略について述べる。

『名古屋大学五十年史 通史』（全二巻）は、名古屋大学五十年史編纂事業の最後の取り組みである。この編纂事業は、1985（昭和60）年1月から開始された名古屋大学創立五十周年記念事業の一環として企画され、学内外の関係者の多大な協力により今日まで進められたきた。編纂事業が開始されて以来、多種多様な史料が寄せられた。写真を含めた史料の提供、聞き取り調査は、270以上の諸機関・個人にのぼる。

1985年11月、名古屋大学史編集委員会において、「名古屋大学史」は通史編、部局史編、年表・資料編ならびに写真集で構成されることが決定された。そして、名古屋大学史編集要綱が確認されて、次に示す「全巻の編集方針」が定められた。

1. 名古屋大学の全学を対象とする歴史編纂は今回が最初である。
すでに刊行されている部局史（誌）等を参照としたいうえ、さらに資料の調査収集を徹底し、将来に向けての全学的展望のもとに歴史を記述する。
2. 前史および帝国大学期、さらに新制大学期を通じて、名古屋大学が人材の育成および学術の発達において果たした役割について、一つには国家政策との関わりから、他方、地域（東海地方さらには中部地方）の本学

に対する要求・期待との関わりから叙述する。

3. 名古屋大学の歴史をその前史を含めて総合的・体系的に叙述し、大学史・教育史および地方史としても一級の水準のものとする。

編纂を開始するにあたって第一に重要な作業は、綿密な史料調査・収集であるが、過去に全学的規模で沿革史の編纂は行われていないことから、現存する史料の質・量に関して全く予測がつかないいわば白紙からともいえるスタートとなった。特に戦前の史料に関しては、戦災などによりその多くが焼失ないし散逸していることが予想され、十分な史料が得られるかどうか大いに危惧された。

執筆段階に入るにあたって、1987（昭和62）年4月に新たに通史執筆担当の編集室員からなる執筆担当者会議が発足し、執筆分担の調整や進行状況の確認等が行われた。また、編集委員長、編集副委員長、鶴舞地区代表の委員の5名からなる常任編集委員会が設置され、編集の大綱的審議にあたる体制が作られた。

以上のような体制作りがなされるなか、諸般の事情により部局史制作が予定より遅れた。部局史作成の過程で各部局関係史料が発掘され、それを通史作成に生かすことができると考えたため、部局史作成の停滞は直接的に通史作成の遅延につながった。さらに、通史執筆担当者は各部局において部局史の作成にも関わっており、部局史と通史を同時並行的に作成することは困難な状況であった。そのため刊行計画の見直しがなされ、まず部局史作成に全力を傾けることとなった。そして、編集委員会設置から数えて約5年後の1989（平成元年）10月に『名古屋大学五十年史 部局史』（全二巻）が刊行された。

その後、通史作成と並行して、編纂事業開始以来の懸案であった写真史料の収集が本格的に行われ、写真集の編纂が進められた。部局史刊行から約2年後の1991（平成3）年12月に『写真集 名古屋大学の歴史 1871～1991』が刊行された。

通史に関しては、通史執筆担当者が執筆した原稿を署名入りの稿本として刊行し、それをもとに全体構成の組み替え、重複または不足箇所に加除修正、字句・表題の統一等を行い通史原稿を作成するという方式をとった。稿本は、1993（平成5）年12月から順次刊行された。

この通史原稿作成の過程で、稿本の章節の組み替えにまで至る大幅な調整を行った。写真集刊行から約4年後の1995（平成7）年10月、『名古屋大学五十年史 通史』（全二巻）が刊行されたのである。なお、大学史編纂の中で収集された史・資料等は、名古屋大学史編集室を発展的に解消して設置された名古屋大学史資料室（篠田 弘室長）に受け継がれ、活用されることになった。

名古屋大学五十年史の編さんは、本格的な取り組みがなされてから、約10年10ヶ月の歳月を要したが、通史の刊行により終了することとなった。しかし、当初計画された年表、資料編等については、まだ構想の域を出ず、今後の課題として残されている。

先にも述べたように、1996（平成8）年4月、名古屋大学史資料室は、教授併任による室長1名及び専任室員若干名からなる組織として、旧名古屋大学史編集室を発展的に解消して、ひとまず学内措置により設置された。そして、翌1997年には名古屋大学史資料室利用規程が制定施行された。資料室は、その設置以来、受け継いだ史・資料の適

切な保存と有効な活用をはかるためのシステムの構築を鋭意進める一方で、さらなる史・資料の充実と補完のための探索・収集作業を行うとともに、収集資料活用の一環として名古屋大学史及び高等教育史に関する研究活動を行っている。また、整理途上で制約は多いながらも、学内外からの史・資料に関する照会等にも公式に対応する体制を整えつつある。さらに、1999年度からは、全学共通科目（総合科目）の講義を担当し、教育活動面での充実も図られつつある。

しかし、教育改革、大学改革が声高に叫ばれている中で、大学史関係資料の収集、整理、保存の重要性は、益々高まってくると思われる。そのため、資料室が設置当初から持っていた省令施設化構想の早期の具体化が要請されていると言えよう。現状を考えれば、それは、資料室単独施設ではなく、大学図書館（Univ. Library）・大学博物館（Univ. Museum）・大学文書館（Univ. Archives）の三者を合同した、いわば名古屋大学総合情報発信基地構想としての省令施設化を企図すべきであろう。

史資料提供のお願い

名古屋大学史資料室では、書籍や新聞・雑誌などをはじめとして、教材や教具、講義ノート、古い合格通知や学生証などの証書、在学（職）中の日記や記録、写真、絵葉書、徽章やバッジその他記念品等々にいたるまで、多岐にわたる史資料を収集しています。

名古屋大学および下記諸学校に関する史資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご寄贈くださいますようお願いいたします。ご寄贈いただいた史資料は、貴重な歴史資料として永く保存・活用させていただきます。

名古屋藩仮医学校・医学講習場・公立医学所・愛知医学校・愛知県立医学専門学校・愛知医科大学・名古屋医科大学・名古屋帝国大学・第八高等学校・名古屋高等商業学校・名古屋経済専門学校・岡崎高等師範学校、他

名古屋大学史資料室（名古屋市千種区不老町 〒464-8601 電話・FAX (052)789-2046）までご一報下さい。

受贈図書一覧（99年2月～00年1月）

特別展 戦没画学生「祈りの絵」展 感想文集		四日市大学論集 第11巻第2号	
立命館大学国際平和ミュージアム	2月1日	四日市大学学会経済学部部会	4月6日
立命館大学 国際平和ミュージアムだより 第6巻第2号(通巻第15号)		関西学院百年史 通史編 索引	関西学院 4月6日
立命館大学国際平和ミュージアム	2月1日	人文論集 第34巻第1-2号、3-4号	
第13回展示 商学部・経済学部半世紀の歩み		神戸商科大学経済研究所	4月6日
大阪市立大学大学史資料室	2月1日	JUAA 選書 第8巻 学術研究の動向と大学	
新修名古屋市史報告書 5 下郷家文書目録		財団法人 大学基準協会	4月6日
名古屋市市政資料館	2月8日	JUAA 選書 第9巻 いま、大学の臨時的定員を考える	
日本学術振興会 30年史		財団法人 大学基準協会	4月6日
日本学術振興会庶務課	2月18日	山口大学 50周年記念誌 通史、写真集・対談	
東京経済大学沿革資料 第一集		山口大学	4月6日
東京経済大学 100年史編纂室	2月25日	歴史編纂事務室報告 第二十集 明治大学の大学史料	
東北大学百年史編纂室ニュース 第3号		明治大学総務部歴史編纂事務室	4月12日
東北大学百年史編纂室	2月27日	大学史紀要 紫紺の歷程 第三号	
愛知県公文書館だより 第三号		明治大学総務部歴史編纂事務室	4月12日
愛知県公文書館	2月27日	神戸山手学園七十五年史	
大谷大学真宗総合研究所研究紀要 第15号 1996(平成8)		学校法人 神戸山手学園	4月13日
年度研究報告 大谷大学真宗総合研究所	3月2日	中央大学史紀要 第十号	
研究所報 第36号 大谷大学真宗総合研究所	3月2日	中央大学広報部大学史編纂課	4月13日
岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要 第31号		中央大学百年史編集ニュース 第三十一号	
岐阜聖徳学園大学短期大学部図書館	3月2日	中央大学広報部大学史編纂課	4月13日
成瀬記念館 1998 No.14		薔薇を形見に- 回想の川崎寿彦-	神谷智 4月13日
日本女子大学成瀬記念館	3月16日	立命館百年史紀要 第七号	
学習院大学五十年史ニュース 第4号		立命館百年史編纂室	4月21日
学習院大学五十年史編纂室	3月31日	神奈川大学史資料集 第十五集	
東京大学史史料室ニュース 第22号		神奈川大学大学史料編纂室	4月21日
東京大学史史料室	3月31日	平成10年度 長崎大学生涯学習教育研究センター年報	
立命館大学国際平和ミュージアムだより 第6巻第3号(通巻第16号)		長崎大学生涯学習教育研究センター	4月21日
立命館大学国際平和ミュージアム	3月31日	愛知県史研究 第3号	
校史 Vol.8 國學院大學校史資料課	3月31日	愛知県総務部県史編さん室	4月21日
九州大学大学史料室ニュース 第13号		愛知県史 資料編6 古代1、付録	
九州大学大学史料室	3月31日	愛知県総務部県史編さん室	4月21日
日本女子大学学園史ニュース 第2号		京都大学図書館報 静脩 Vol.35. No.4 西山伸	4月21日
日本女子大学成瀬記念館	3月31日	サティア 《あるがまま》 第34号	
新修名古屋市史だより 第一五号		東洋大学井上円了記念学術センター	4月26日
名古屋市市政資料館	3月31日	拓殖大学百年史研究 1・2 合併号	
香川県立文書館だより 第10号		拓殖大学創立百年史編纂室	4月30日
香川県立文書館	3月31日	後藤新平記念館だより 第4号	
新島研究 第90号 同志社社史資料室	4月6日	水沢市立後藤新平記念館	4月30日
同志社叢談 第19号 同志社社史資料室	4月6日	四日市大学環境情報論集 第2巻第2号	
京大百年 京都大学百年史編集委員会	4月6日	四日市大学学会	5月7日
東北大学記念資料室資料目録 仙台医学専門学校資料目録		立命館百年史 通史一	学校法人 立命館 5月7日
東北大学記念資料室	4月6日	(卓球部 50周年記念) フレーフレー名大	
		山田郁恵	5月21日

神奈川県立公文書館紀要 第2号	神奈川県立公文書館	5月21日	試行授業「九州大学の歴史」に対する学生の反応について	九州大学大学史料室	6月28日
明治期の同志社	同志社社史資料室	5月24日	九州大学教育情報 第4号	九州大学大学史料室	6月28日
心かよう緑の町を一本山政雄回想録	本山政雄	6月8日	ARCHIVES OF KYUSYU UNIVERSITY	九州大学大学史料室	6月28日
藤沢市文書館紀要 第二十二号	藤沢市文書館	6月8日	料室	九州大学大学史料室	6月28日
香川県立文書館紀要 第3号	香川県立文書館	6月8日	醫事新報 第五十一～五十四號	田中英夫	6月28日
滋賀大学史—50周年を迎えて—	滋賀大学	6月11日	京都工芸繊維大学学報 第349号	京都工芸繊維大学庶務課	6月30日
宮城教育大学三十年史資料集 I	宮城教育大学	6月11日	BUTSUDAI 9TH	佛教大学	6月30日
宮城教育大学三十年史資料集 II	宮城教育大学	6月11日	関東学院学院史資料室ニューズレター 創刊号	関東学院史資料室	6月30日
伊藤圭介日記第一集～第五集	名古屋市東山植物園	6月17日	名古屋市博物館だより 第128号	名古屋市博物館	6月30日
東京学芸大学五十年史 通史編、資料編	東京学芸大学附属図書館情報管理課	6月17日	中央大学史資料集 第十七集（「法学新報」所載 中央大学関係記事一）	中央大学大学史編纂課	7月1日
信州大学創立50周年記念誌 テーマ：新たな創造と交流をめざして	信州大学附属図書館情報管理課	6月17日	香川県立文書館史料集2 高松藩御令條之内書抜 下巻	香川県立文書館	7月5日
広島大学紀要 第一号	広島大学50年史編集室	6月18日	岐阜大学の五十年	岐阜大学	7月9日
宮城学院資料室年報『信・望・愛』 第5号	学校法人 宮城学院 宮城学院資料室	6月18日	サティア《あるがまま》第35号	東洋大学井上円了記念学術センター	7月27日
学習院大学の50年 写真と図録	学習院大学	6月18日	岡山大学史（平成元年～平成11年）	岡山大学	7月30日
立教学院百二十五年史 資料編第1巻～第3巻	立教学院百二十五年史編纂室	6月18日	岡山大学50年小史	岡山大学	7月30日
『生命の起原』とロシア・ソ連-ヴォルガ川・モスクワ川・オカ川の風景	山口拓史	6月21日	早稲田大学史記要第三十一巻	早稲田大学大学史資料センター	7月30日
岡崎市史研究 第十五号～第二十号	岡崎市教育委員会社会教育課文化財班	6月21日	校史 Vol.9	國學院大學校史資料課	7月31日
愛知県岡崎市 小針遺跡	岡崎市教育委員会社会教育課文化財班	6月21日	新青森市史 別編1 教育（1）、別編2 教育（2）	青森市総務課	8月20日
高田短期大学紀要 第17号	高田短期大学	6月21日	新修 名古屋市史 第三巻、付図、第四巻	名古屋市政資料館	8月27日
武蔵野美術大学 大学史史料集 第一集『学校日誌』	武蔵野美術大学大学史史料室	6月22日	京都工芸繊維大学学報 第350号	京都工芸繊維大学庶務課	8月31日
全国大学史資料協議会東日本部会の十年の歩み	中村治人	6月25日	立命館大学国際平和ミュージアムだより 第7巻第1号（通巻17号）	立命館大学国際平和ミュージアム	8月31日
実践女子学園創立100周年記念写真集	学校法人 実践女子学園	6月28日	静岡大学の五十年 通史、写真集	静岡大学創立五十周年記念事業委員会	9月3日
群馬大学50年のあゆみ 輝く未来に向けて	群馬大学	6月28日	国立遺伝学研究所年報 第49号	国立遺伝学研究所	9月10日
群馬大学創立50周年記念 群馬大学学生歌・応援歌（CD）	群馬大学	6月28日	四日市大学論集 第12巻第1号	四日市大学学会経済学部部会	9月28日
長崎大学五十年史	長崎大学総務部総務課	6月28日	名古屋外国語大学外国語学部 紀要 第19号	名古屋外国語大学	9月28日
法政大学と戦後五〇年 資料篇二—法政大学史資料集 第二十二集—	法政大学大学史編纂室	6月28日	データで見る中京大学 No.5 1998年度	中京大学総合企画部	9月28日
九州大学関係史料目録	九州大学大学史料室	6月28日	東北大学百年史編纂室ニュース 第4号	東北大学百年史編纂室	9月30日
九州大学大学史料叢書 第7輯	九州大学大学史料室	6月28日			

北海道大学 125 年史編集室だより 第 2 号 北海道大学 125 年史編集室	9 月 30 日	三重大学五十年史 部局史編 50 Years' History of Mie University — Departmental History —、通史編・資料編 50 Years' History of Mie University — General History and Reference Data—	
新修名古屋市史だより 第一六号 名古屋市市政資料館	9 月 30 日	三重大学開学 50 周年記念誌編纂室	12 月 9 日
後藤新平記念館だより 第 5 号 水沢市立後藤新平記念館	9 月 30 日	三重大学五十年史	
香川県立文書館だより 第 11 号 香川県立文書館	9 月 30 日	三重大学開学 50 周年記念誌編纂室	12 月 9 日
佛教大学学事年報 1997 年度版 佛教大学教務部学術振興課	10 月 8 日	21 世紀を翔る 目で見る富山大学の 50 年 富山大学開学 50 周年記念写真集	富山大学 12 月 17 日
佛教大学学事年報 1998 年度版 佛教大学教務部学術振興課	10 月 8 日	鳥取大学 写真で見る 50 年 鳥取大学総務部	12 月 17 日
大学アーカイヴズに今日的役割について—大学記録の保存と活用— 日露野好章	10 月 18 日	大阪国際学園創立 70 周年記念誌	大阪国際学園広報室 12 月 17 日
拓殖大学百年史研究 3 号 拓殖大学創立百年史	10 月 18 日	「社会と女性たちと、夢の共創」—椋山女学園大学開学 50 周年記念写真集	椋山女学園大学 12 月 17 日
東京大学史紀要 第一七号 東京大学史史料室	10 月 18 日	大谷大学図書館蔵 西藏大蔵経丹殊爾勘同目錄Ⅱ, 3	大谷大学真宗総合研究所 12 月 17 日
新島襄と関西 同志社社史資料室	10 月 18 日	サティア《あるがまま》第 36 号	東洋大学井上円了記念学術センター 12 月 17 日
京都大学百年史 資料編 1 京都大学	10 月 21 日	熊本バンドの人たち 同志社社史資料室	12 月 17 日
京都工芸繊維大学学報 第 351 号 京都工芸繊維大学庶務課	10 月 30 日	尋源—大谷学園九十周年記念—	学校法人 大谷学園 12 月 20 日
拓殖大学創立 100 周年ニュース NO.7 拓殖大学創立百周年事業事務局	10 月 30 日	核融合科学研究所ニュース No.98 ~ 107 号	核融合科学研究所 5 月 ~ 12 月
東北大学記念資料室だより 第 2 号 東北大学記念資料室	10 月 30 日	大学史資料室ニュース第 4 号	大阪市立大学大学史資料室 12 月 25 日
金沢大学資料館だより 第 14 号 金沢大学資料館	10 月 30 日	立命館大学国際平和ミュージアムだより 第 7 巻第 2 号(通巻第 18 号)	立命館大学国際平和ミュージアム 12 月 25 日
金沢大学 写真で見る 50 年 谷本宗生	11 月 1 日	愛知県公文書館だより 第四号	愛知県公文書館 12 月 25 日
山形大学 50 年史 山形大学	11 月 9 日	金澤大学五十年史部局編	金沢大学本部 1 月 7 日
南山大学五十年史 写真集 南山大学	11 月 9 日	高知大学創立 50 周年写真集 1949-1999	高知大学事務局 1 月 7 日
人文論集 第 35 巻第 1 号 神戸商科大学経済研究所	11 月 9 日	愛知教育大学 50 周年記念誌、歴代職員名簿・諸統計	愛知教育大学 1 月 7 日
中央大学百年史編集ニュース 第三十二号 中央大学大学史編纂課	11 月 9 日	四日市大学環境情報論集 第 3 巻第 1 号	四日市大学学会 1 月 7 日
佛教大学報 第 49 号 佛教大学企画部企画課	11 月 11 日	広島大学の 50 年	広島大学本部 1 月 7 日
九州大学大学史料室ニュース 第 14 号 九州大学大学史料室	11 月 30 日	ばさら第 2 号—名古屋大学日本史通信—	神谷智 1 月 7 日
千葉大学五十年史、CD-ROM 千葉大学企画広報室	12 月 9 日	東京大学百年史 資料一～三、部局史	東京大学大学史史料室 1 月 27 日

資料室日誌（抄）

- 8月18日 東京工業大学大学院学生3名、戦後の大学改革に関する資料閲覧のため来室。
- 8月20日 神戸商科大学教員、資料閲覧のため来室。
- 9月3日 名大施設部施設計画推進室員、資料閲覧のため来室。
- 9月7日 名大工学部卒業生、八高出身寺田守に関する資料閲覧のため来室。名大事務員、『文部省幹部職員名鑑』閲覧のため来室。テレビ番組制作会社、八高の写真につき照会。
- 9月13日 『名古屋大学史資料室ニュース』第7号刊行。
- 9月20日 山口助手、金沢市出張（全国大学史資料協議会、22日まで）。
- 10月15日 名大施設部施設計画推進室員、資料閲覧のため来室。
- 10月16日 八重澤一衛氏より、資料受贈。
- 10月18日 全学共通科目総合科目『日本の大学－近代日本と名古屋大学－』開始。
- 10月19日 元名大事務員、資料閲覧のため来室。
- 10月22日 山口助手、東京都出張（日本教育行政学会、24日まで）。
- 11月7日 山口助手、秋田市出張（平成11年度史料管理学研修会、14日まで）。
- 11月8日 名大教育学部事務員より、『大学史研究』につき照会。
- 11月15日 高橋昭名大名誉教授より、資料受贈。
- 11月12日 名大教育学部教員より、史資料の整理方法につき照会。
- 11月17日 名古屋大学史資料室、共同教育研究施設1号館2階に移転。
- 11月25日 名大法学部教員より、法学部関係資料につき照会。
- 11月26日 名大法学部教員、資料閲覧のため来室。
- 12月2日 名大受験希望者、資料閲覧のため来室。
- 12月8、9日 東京大学史史料室員、GHQ文書に関する調査のため来室。
- 12月9日 津田塾大学津田梅子資料室員、名古屋大学史資料室利用規程につき照会。
- 12月10日 名大施設部施設計画推進室員、資料閲覧のため来室。
- 12月15日 中村助手、東京出張（国立国会図書館、国立公文書館、18日まで）。名大文学部大学院学生、八高に関する資料閲覧のため来室。
- 12月22日 名古屋大学史資料委員会（第11回）開催、終了後資料室を見学。嘉藤良次郎名大名誉教授より、資料受贈。
- 12月24日 名大卒業生、『交友会雑誌』につき照会。
- 1月6日 名大経済学部事務員より、資料寄贈につき照会。
- 1月13日 名大文学部大学院学生、八高に関する資料閲覧のため来室。
- 1月20日 名大経済学部事務員より、資料寄贈につき照会。
- 1月27日 名大文学部大学院学生、八高に関する資料閲覧のため来室。
- 1月21日 吉村好子氏より、資料受贈。名大法学部教員より、資料寄贈及び法学部関係資料につき照会。
- 1月31日 水田洋名大名誉教授より、資料受贈。

Nagoya University Archives

Nagoya University Archives(NUA) was founded in April 1996, as a inside measure in Nagoya University. NUA has its origins in the Office of the Compilation of the History of Nagoya University established in April 1985, which edited "Fifty Years History of Nagoya University". The publication was planned as one of many commemorative works for 50th anniversary of Nagoya University.

NUA collects and archives all kinds of historical materials on Nagoya University. Its purpose is not only the collecting of the above materials, but the research on the history of Nagoya University, moreover that of higher education. NUA's holdings are institutional records, University of other publications, oral history collections, drawings, photographs, memorabilia collections, manuscripts, faculty papers and so on. NUA provides information and records created by, for, and about the University to faculty, staff, students, and the public for research.

The office consists of several teaching staffs of School of Education and School of Letters.

名古屋大学史資料室
室長 篠田 弘 (教授・併任)
専任室員 神谷 智 (助手)
中村 治人 (助手)
山口 拓史 (助手)
事務員 増田 よしみ

題字 加藤延夫前総長

名古屋大学史資料室ニュース 第8号
Nagoya University Archives News No.8

発行日 2000年3月16日(年2回刊)
編集発行 名古屋大学史資料室
名古屋市中種区不老町〒464-8601
電話 (052)789-2046
印刷 株式会社荒川印刷
名古屋市中区千代田 2-16-38